第23回朗読塾公演　朗読「人情奇話と国民的通俗小説」(明治の男性作家四人の競演・饗宴)を11月24日(日)に昼夜2回、西川アイプラザ5階ホールにて上演した　来場者340名

朗読塾

活動の目的

明確で力強い言葉の表現と伝達を軸に、豊かな表現力を養い、照明、音楽等駆使して、集団による立体的な舞台朗読活動を行う。そして作品の持つ感動や叙情を力強く表現し、朗読の楽しさ、素晴らしさを観客と共有し、芸術・文化の向上、育成に寄与することを目的としている。

活動の内容及び経過

朗読塾は21回公演から新機軸を目指し、第22回は朗読「人情時代小説」女流作家3人の競演・饗宴と題して、江戸下町の人情物語を上演した。今回の第23回公演は、朗読「人情奇話と国民的通俗小説」（―明治の男性作家四人の競演・饗宴―）のタイトルで、岡本綺堂の「鼠」、徳富蘆花の「不如帰」、尾崎紅葉の「金色夜叉」、泉鏡花の「婦系図」の作品を取り上げた。今年は男性版である。近年、いろいろな意味で、明治の歴史文化を紹介することがマスメディアでも多くなっている感じがする。そこで、明治大正で一世を風靡した大衆小説であり、あの有名な台詞場面がある、お馴染みの3作を情感たっぷりに、立体朗読で行った。朗読でその時代を感じてもらえればと企画した。1月に台本作成、3月に配役を決定し練習に入った。今日あまり使われない言葉、独特の言い回しなど多くあり、また、文語体の表現で聞きなれない点も、だんだんと心地よく聞こえるようになり、当時の雰囲気が少なからず再現できたのではないかと感じる。例年通りの立体朗読（登場人物と地読みの部分を完全に分け、聞いている人が、登場人物のキャラクターを十分意識できるよう配慮する。こういう方法を、立体朗読と自称している）で出演者が一体化して表現することで、より深みのある作品になることを目標とした。その雰囲気作りに、舞台装置、照明効果を大いに活用することに重点をおいた。この助成を頂くことによって、その点を充実することができ、本来の目的を達することができた。シンプルであるが、作品の雰囲気を十二分に醸し出す舞台装置、洗練された照明を駆使できることを念頭に、舞台美術、照明プランを設計し、練習を開始したが、予定通りの結果に満足している。朗読塾ではメンバー全員の出演を念頭に置いている。出番の多い少ないは多少あるが、物語全体の雰囲気を考えながら全員が頑張った。また、当時のいろいろな背景、状況を紐解くなど、明治期の文化の一端に触れることが出来た。いわゆる新派劇の雰囲気を多少でも観客の方に感じていただけたと感じている。

活動の成果・効果

助成を得ることで、想定した重量感あふれる作品に挑戦することができ、多くの来場者が満足できる舞台創作が可能になり、11月24日の公演を迎えることができた。今回は会場の都合で（土曜日が休館日）日曜日に昼、夜2回公演となり、かなり厳しいスケジュールとなったが1回目は満席、2回目は日曜夜ということで客足は多少減ったが、全体で340名の来場者を迎えることができた。多くの絶賛の声とともに貴重なご意見も頂いた。メンバーの会費のみでは実現が難しい、満足する舞台装置、満足できる照明・音響の駆使ができたことが助成の大きな力であると言える。岡山県の文化振興に多少なりとも寄与できたと思っている。

今後の課題と問題点

今後のより充実した舞台創作活動を行うには、会場の使用利便さ（土曜日の有効利用（休館無し）、駐車場等）、練習場の確保、経済的負担低減などが大きな課題である。

●代表者：沖田喜一　●所在地：倉敷市中庄
●TEL：086-462-9031　●E-MAIL：okita@gold.megaegg.ne.jp
●URL：http://ameblo.jp/roudokujuku/
●設立年：1995年　●メンバー数：13名